

南ア月報
(2020年12月)

【内政】

- ネルソン・マンデラベイ都市圏における規制強化及び国家的災害事態の延長（ロックダウン警戒レベル1継続）
- 祝祭シーズン中のさらなる規制強化（ロックダウン警戒レベル1継続）
- ロックダウンレベル1から「調整されたレベル3」への規制強化
- マハシューレ与党ANC事務局長の党倫理委員会出席

【外政】

- ラマポーザ大統領による国連安全保障理事会ハイレベル討議出席
- ラマポーザ・AU議長の第13回及び第14回AU首脳会議臨時総会出席
- 茂木敏充外務大臣の南ア訪問
- ドラミニ・エスワティニ首相に対するラマポーザ大統領による弔意
- ファイサル・サウジアラビア外務大臣の南ア訪問
- チセケディ・コンゴ民主共和国大統領の南ア訪問

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高
- GDP成長率

<出来事>

- 南ア政府が小規模農家への1,000億ランド救済プログラムを発表

【警備】

- 南ア治安情勢（ORタンボ国際空港からの追尾強盗）

1 内政

●ネルソン・マンデラベイ都市圏における規制強化及び国家的災害事態の延長（ロックダウン警戒レベル1 継続）

3日、ラマポーザ大統領は演説を行い、感染ホットスポットであるネルソン・マンデラベイ都市圏（東ケープ州）における追加的な規制強化（既存のレベル1の制限は全国で継続）について発表した。また、国家的災害事態（national state of disaster）が1か月延長（1月15日まで）となった。

●南アにおける新型コロナウイルス感染第二波の到来

9日、ムキゼ保健大臣が演説を行い、南アは、新型コロナウイルス感染第二波に突入していると発表した。第二波の中心となっているのは、主に、西ケープ州、東ケープ州、ハウテン州及びクワズールー・ナタール州とされた。

●祝祭シーズン中のさらなる規制強化（ロックダウン警戒レベル1 継続）

14日、ラマポーザ大統領は演説を行い、祝祭シーズン中の全国規模のさらなる規制強化（既存のレベル1の制限は全国で継続）及び、新たな感染ホットスポット（サラ・バートマン地区（東ケープ州）とガーデンルート地区（西ケープ州））の追加等について発表した。

●ロックダウンレベル1から「調整されたレベル3」への規制強化

28日、ラマポーザ大統領は演説を行い、ロックダウンレベル1から「調整されたレベル3（the adjusted Level 3）」への規制強化及び既存の感染ホットスポットのネルソン・マンデラベイ都市圏（東ケープ州）サラ・バートマン地区（東ケープ州）とガーデンルート地区（西ケープ州）に加え、ケープタウン、ダーバン、ツワネ及びヨハネスブルグを含む都市・地区を新たにホットスポットと特定したと発表した。

「調整されたレベル3」の主な規制は、夜間外出禁止令の時間の拡大（午後9時から午前6時）及び公共の場所でのフェイスマスク着用の義務化（共に罰則規定あり）のほか、全ての社交的な集まりの禁止や、酒類の販売・供給・流通の禁止など。

なお、調整されたレベル3の規制は、12月29日午前0時から適用され、1月15日まで継続され、南ア国内のパンデミックの状況に基づき、見直される予定。

●マハシューレ与党ANC事務局長の党倫理委員会出席

12日、汚職問題で起訴されたマハシューレANC事務局長がANC党倫理委員会（ANC Integrity Commission）に出席した。同委員会は、マハシューレ氏は直ちにその地位から身を引くべきであるとの結論を出したが、同氏は直ちに事務局長の立場を退かず、ANCは、1月の全国執行委員会（NEC）が党倫理委員会の本報告について扱うとしている。

2 外政

●ラマポーザ大統領によるCOVID-19に関する第31回国連総会特別セッション出席

3日、ラマポーザ大統領はCOVID-19に関する第31回国連総会特別セッション（バーチャル方式）に出席した。演説においてラマポーザ大統領は、パンデミックが始まって以来、すべての国が効果的に対応できるよう、国際的に協調した行動がとられてきた、この協力は、貧困、不平等、低開発の重荷を背負い続けている途上国の経済にとり、特に有益なものであり、南アは国際社会から受けた支援、助言、連帯に感謝している旨述べた。ラマポーザ大統領はまた、すべての人々に効果的なワクチンが公平に行き渡るようにするため、国連加盟国に対し、COVID-19 ツールアクセレータ（注：G20の呼びかけにより、WHO及び関係機関等が

立ち上げた新型コロナウイルスと闘うためのツールを開発するための世界的なパートナーシップ)及びCOVAXファシリティ(注:新型コロナウイルスワクチンの公平な普及のために立ち上げられた世界的な枠組み)へのアクセスに関し、WHOと協力するよう呼びかけた。

●ラマポーザ大統領による国連安全保障理事会ハイレベル討議出席

4日、ラマポーザ大統領は、国連安全保障理事会の国連と地域・サブリージョナル機関の協力に関するハイレベル討議(バーチャル方式)に議長として出席した。ラマポーザ大統領は、「この1年、南アは安全保障理事会の理事国を務めただけでなく、我々の大陸の機関であるアフリカ連合(AU)の議長を務めるという荣誉に浴した。アフリカ大陸の紛争解決に向けた安保理の努力を振り返り、AUと国連のパートナーシップをさらに強化するために、この会議の機会を歓迎する。」「国連安全保障理事会とAU平和安全保障理事会の間の戦略的協力をさらに強化する必要がある。アフリカのディアスポラの一部であるセントビンセント及びグレナディーン諸島が、安全保障理事会のアフリカ諸国、すなわちニジェール、チュニジア、南アとともに、アフリカの紛争の平和的解決のために国連とAUの間での協力を促進するために共同で取り組んでいることを称賛する。」旨述べた。

●ラマポーザ・AU議長の第13回及び第14回AU首脳会議臨時総会出席

5日～6日、ラマポーザ大統領はAU議長として第13回及び第14回AU首脳会議臨時総会(バーチャル方式)に出席した。

5日のアフリカ大陸自由貿易地域(AfCFTA)に関する第13回首脳会議では、2021年1月1日のAfCFTA運用開始に向け、AfCFTAの運用を促進する法的文書の採択がなされた。ラマポーザ大統領は、「このプロセスを通して、我々は、経済発展のレベルや戦略的優先事項が異なるにもかかわらず、55の主権国家たるAU加盟国が一丸となって団結してきた。2021年1月1日にAfCFTAの下での貿易が開始されることは、大陸統合プロジェクトの中で最も重要なマイルストーンの一つである」旨述べた。

6日の紛争停止(Silencing the Guns)に関する第14回首脳会議では、ラマポーザ大統領は、この首脳会議において、紛争のないアフリカを実現するために先人から与えられた道徳的・政治的義務に対する、現在の大陸の指導者のコミットメントを再確認することができた旨述べた。

●茂木敏充外務大臣の南ア訪問

11日～12日、茂木外務大臣が南アを訪問した。12日、茂木大臣は、パンドール・国際関係・協力大臣との間で外相会談及びワーキングランチを行った。会談において、茂木大臣から、日本は、TICADを通じた保健分野の協力の実績を踏まえ、南アに対し、国際機関や地域機関を通じて、保健医療物資の供与、危機管理能力の強化及び保健医療体制の強化等の支援の実施した旨述べた。これに対し、パンドール大臣から、日本の取組・支援に対する感謝の意が示され、日本企業による対南アフリカ投資の増加を含む一層の日・南アフリカ・ビジネス関係の強化への期待が表明された。また、両大臣は、今後の感染状況も見つつ、「日・南アフリカ・パートナーシップ・フォーラム」を早期に開催することで一致した。

さらに、南ア出発前、茂木大臣は、空港にてラマポーザ大統領からの電話を受け、同大統領より、今回は日程の都合上直接お会いできず残念だが、茂木大臣の南ア訪問を心から歓迎し、パンドール大臣と充実した議論ができたと聞いている旨述べ、茂木大臣からは、パンドール大臣との間で非常に有意義な意見交換を行った、TICAD8に向けた協力を進め、南アとのビジネス関係や人的往来を更に促進し、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて連携していきたい旨述べた。

●ドラミニ・エスワティニ首相に対するラマポーザ大統領による弔意

13日、新型コロナウイルス感染症の治療のため南アの病院に入院中のドラミニ・エスワティニ首相が逝去したことを受け、14日、南ア大統領府が声明を発出した。声明の中でラマポーザ大統領は、「今日、南アのすべての国民と大陸の同胞は、自国を率い、代表することに誇りを持っていた指導者の逝去に悲しみの中で頭を垂れる。」「故首相の早すぎる死は、COVID-19という形での無差別な被害を思い起こさせる悲劇的なものである」旨述べた。

●ファイサル・サウジアラビア外務大臣の南ア訪問

14日、ファイサル・ビン・ファルハーン・アール・サウード・サウジアラビア外相が南アを訪問し、パンドール・国際関係・協力大臣との間で外相会談を行った。会談においてパンドール外務大臣は、COVID-19と戦う最も困難な時期に多くのグローバル・パートナーがアフリカに行った支援に感謝するとともに、サウジアラビアはG20議長という立場から、世界全体としての即応性を確保する上で、重要な役割を果たしている旨述べた。なお、今回の同外務大臣の南ア訪問は、2021年に予定されているラマポーザ大統領の同国訪問に先立って行われたものとされている。

●チセケディ・コンゴ民主共和国大統領の南ア訪問

19日、チセケディ・コンゴ民主共和国大統領が南アを訪問し、ラマポーザ大統領と会談を行った。両大統領は、この機会を利用して、二国間協力の強化及び地域レベルでの発展に関する意見交換を行うとともに、アフリカ連合の文脈の中で大陸に影響を与える広範な問題について議論した。南アは、2021年にAU議長をコンゴ民主共和国に引き継ぐ予定である。

3 経済

<経済指標>

●消費者物価指数

2020年11月の消費者物価指数（CPI）は前月から変化はなく、年間消費者物価インフレーション率は3.2%と、前月に比べ0.1%低下した。（南ア統計局、12月9日）

●為替レート

2020年12月31日付（南ア準備銀行）

7.0361 ランド/円

14.6246 ランド/米ドル

17.9897 ランド/ユーロ

●製造業生産高

2020年10月の製造業は、前年同月比3.4%減。主なマイナス要因は、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品で6.8%減、鉄鋼、非金属製品、金属製品及び機械で5.0%減、自動車及び輸送機器関連製品で6.8%減、木材及び木材製品、紙、出版及び印刷で3.4%減。また過去3ヶ月（8月～10月）の季節調節後生産高は2020年5月～7月の3ヵ月から17.2%増。製造業10部門中全ての部門で生産高増となった。（南ア統計局、12月10日）

●鉱業生産高

2020年10月の鉱業生産高は、前年同月比6.3%減。主なマイナス要因は、鉄鉱石で26.5%減、クロム鉱石で31.4%減、その他非金属鉱物で17.3%減、石炭で4.0%減。また過去3ヶ月（8月～10月）の季節調節後生産高は2020年5月～7月の3ヵ月から18.5%増。（南ア統計局、12月10日）

●GDP成長率

南ア統計局は2020年第3四半期のGDP成長率を発表。第2四半期と今期の比較ではプラス13.5%、前期比年間換算成長率ではプラス66.1%（注：南ア統計局公式のGDP成長率測定方法。今測定方法は前期比の成長率が今後1年間続くと仮定した場合、年間成長率がどのようになるかを測定する方法）。産業別にみると10部門全てでプラス成長を記録。（南ア統計局、12月8日）

<出来事>

●南ア政府が小規模農家への1,000億ランド救済プログラムを発表

12月7日、ディディザ農業・土地開発・地方開発大臣は、パンデミックにより生産が中断された小規模農家支援のため、各農家最大で9,000ランドの補助金を受け取ることができる救済プログラムを発表。本プログラムは、大統領が発表した経済再建及び回復計画の雇用創出プログラムの一環であり、申請を受け付けた中の75,000の農家を選定し2021年3月末までに補助金を交付予定。

4 警備

●南ア治安情勢（ORタンボ国際空港からの追尾強盗）

27日、ORタンボ国際空港に到着後、乗用車で帰宅した人が追尾強盗の被害にあった。被害者が自宅敷地内に入った直後、強盗犯の車がゲートを突破して侵入し、複数名の犯人から銃で脅されスーツケース等を強奪された。空港利用再開にともない、空港からの追尾強盗などの犯罪活動が活発となっている状況が見受けられる。空港からの帰路は、疲労や帰宅・帰国の安堵感から警戒心が低下しがちである点に留意し、普段以上に周囲の状況に注意し警戒を高める必要がある。